

ブラン氏配備表明 米欧けん制

【リスクリュ・小柳悠志】ロシアのブラン大統領は二〇五日、国営テレビのインタビューで「連合国家」関係にあるベラルーシに戦術核兵器を配備する方針を明らかにした。米欧のウクライナへの軍事支援強化に対抗する措置で、七月一日にベラルーシの核保有施設建設が完了すると説明。歐米とロシアの競争が高まるのは必至だ。

ブラン氏は、今回の決定の背景は英國によるウクライナへの劣化ウラン弾供与があると強調。「米国が欧州の他国に直線の核を配備してきたのと同じ」で核を他国に引き渡すわけではなく、ベラルーシへの戦術核配備は「核拡散防止条約（NPT）に違反しない」との見解を示した。

ブラン氏は、核攻撃への利用も想定されている弾道ミサイルシステム「イスカンダル」も既にベラルーシに配備済みだと述べた。ウクライナへの軍事支援を続ける米欧と北大西洋条約機関（NATO）を強くけん制する狙いとみられる。

ベラルーシでは昨年二月二十七日、核配備に向けた憲法改正の国民投票が行われ、「非核地帯だから中立国」とする条項を削除した。ブラン氏の盟友ル

▼ 25日、ウクライナ東部バフムトの前線近くでロシア軍の攻撃に備えるウクライナ軍高射砲部隊の兵士＝EPA・時事



ロシアを頭主とした由
カシェンコ大統領は同日、NATOに加盟する隣国ボーランドやリトアニアに西側の核兵器が配備された場合、ロシアに核兵器提供を要請すると発言していた。

しかし、ロシアは〇一四年以降、ウクライナ南部クリミア半島を併合するなど主権侵害を強めている。ロシアは〇一四年にドネツク州の激戦地バフムトで、ロシア軍が激しい人員の損失により「失速している」との戦況分析を発表した。これに対し、ウクライナ軍の東部地域の報道官は、バフムトではまだ攻撃が続いていると強調し、さらなる分析が必要だとした。

【キーウ＝共同】英国防省は二〇五日、ウクライナ東部ドネツク州の激戦地バフムトで、ロシア軍が激しい人員の損失により「失速している」との戦況分析を発表した。これはまだ攻撃が続いていると強調し、さらなる分析が必要だとした。

英国防省は、ロシア軍はバフムトの南部に位置するアブデーフカや東部ルガンスク州のクレミンナ、スワト方面に力を移し、守りに転じていると説明した。バフムトではウクライナ軍にも多数の犠牲が出ていると指摘した。

ロシアバフムトで失速か

英国防省分析「激しい人員損失」

二〇六日には、ロシア軍が三月にヤルン無人機（ドローン）少なくとも七十一機による全土攻撃を行ったとの分析を発表。ドローンの定期的な補給が始まつたとの見方も示した。

一方、ロシア国営企業ロステックは二〇五日、核兵器搭載可能な主力長距離戦略爆撃機の改進型ツポレフ160Mを増産すると通電アブリで発表。チエメソフ社長らが二〇四日、ロシア中部カザンの航空機工場を視察した。ツボレフ160Mの生産はブラン大統領の決定によるもので、従来型のツボレフ160よりも戦闘能力を大幅に高めた。

連ではウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンに核兵器が配備されており、一九九一年のソ連崩壊後は核拡散の恐れが生じた。ロシアと米英の三国は一九九四年、ウクライナなどの「核放棄」を受け、領土保全など安全保障を約束する「アタベスト覚書」を締結。